

病院スタッフステーション空間における色彩コントロールの方法

鄭, 菊振

<https://doi.org/10.15017/1654891>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	鄭 菊振			
論文名	病院スタッフステーション空間における色彩コントロールの方法			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	佐藤 優
	副査	九州大学	教授	伊原 久裕
	副査	九州大学	教授	石井 明

論文審査の結果の要旨

本研究は、病院のスタッフステーションにおける家具の色彩をコントロールすることによってスタッフのストレスを軽減することができるかどうかを検討し、その誘導方法を提示したものである。

序章では、病院のスタッフのストレスを軽減することが重要な課題であり、スタッフステーションの色彩との関連を確認し、疲労度の軽減と緊張度を適度に保つ方法を色彩の面から追求する研究目的を述べている。

第1章では、看護師の業務環境に関する現状の確認を行っている。また、病院のスタッフステーションの色彩について調査し、先行研究を確認している。

第2章では、医療家具の5メーカーのデザイナーへのヒアリング調査を行い、医療家具や色彩を選ぶにあたっての背景を確認している。

第3章では、明度と彩度に関する修飾語と、空間を評価する尺度についてイメージ調査を行っている。

第4章では、調査をもとに配色パレットを作成し、印象評価を行い、「作業性」と「落ち着き性」の両面から色彩を誘導する方法を導いている。また、空間だけではなく、そこで働く人を加えた場合の印象のちがいがどうかを確認するために、肌色を加えた場合の印象を確認している。

第5章では、実際の病院の例を用いて、実験の結果から導かれた色彩によるCGシミュレーションを作成し、看護師に印象評価をしてもらって色彩誘導の可能性を検証している。

第6章では、研究全体を総括し、色彩誘導の可能性と今後の課題を提示している。

スタッフステーションの色彩は、看護師の主観的な意見によって左右される。医療家具メーカーのヒアリングからは、清潔で明るい、女性的でやさしいなどのイメージが求められる傾向があることがわかった。ストレス軽減や業務環境改善の視点はまだ不十分であることがわかった。現状の医療家具の基本色はN、R、YR系であり、ポイント色はR、PB、YR、GY系の順であることがわかった。具体的に配色できる要素も確認している。修飾語の調査からは、現状は清潔な、冷たい、明るい、固い、落ち着かないなどのイメージが確認され、理想とする環境への期待では清潔な、新鮮な、明るい、穏やかな、充実した、柔らかななどのイメージが抽出された。作業性と落ち着き性の両面を満足させる配色として、R、GY、PB系の高明度の彩度を調整することが有効であることがわかった。作業性と落ち着きのいずれかを誘導するために有効な色彩と、両方を求めるために有効な色彩を導いている。また、肌色を加えることについては、肌色と彩度差が4以上ある場合に影響があることが確認された。

病院と医療家具メーカーの双方の調査から、現実的な視点を持って研究を進めた点に特徴があり、現場で活用しやすい知見が得られた。わかっているようでいながら実際にはわかっていなかったこ

とをクローズアップさせ、スタッフステーションの色彩環境を計画ないしは改善するための方法について、色彩計画の面から指針を示した有為な研究であり、芸術工学にふさわしい実践的かつ独創的な研究である。

よって、本論文が博士（芸術工学）の学位に値するものであることを、本調査委員会は認めた。